

- 問1 兵庫県神戸市の桜ヶ丘町などで出土した、釣り鐘のような独特の形をした弥生時代の青銅器について述べた文として、最も適切なものはどれですか。なお、この青銅器の表面には、当時の生活の様子や幾何学的な文様が描かれていることがあります。 (2021年 大阪公立入試 類似)
- 縄文時代の集落で見つかる、魔除けのために作られた土偶である
 - 魏の皇帝から邪馬台国の女王に贈られたとされる銅鏡である
 - 狩猟や農耕の様子が描かれた、祭祀に用いられた銅鐸である
 - 古墳の副葬品として納められた、馬に装着する鉄製の装具である
- 問2 邪馬台国の女王卑弥呼が、当時の中国の王朝である魏に使いを送った背景やその後の状況を説明した文として、最も適切なものを選びなさい。 (2023年 山形公立入試 類似)
- 魏の皇帝から「親魏倭王」の称号や金印を授かることで、国内の小国に対する自らの権威を高めようとした。
 - 大陸の優れた仏教文化を直接取り入れるために、公式な使節として小野妹子を魏の都へ派遣した。
 - 倭の奴国の王として、後漢の皇帝から金印を授かり、九州地方の交易の利権を独占しようとした。
 - 秦の始皇帝に対して不老不死の薬を献上することで、国内の争いを鎮めるための軍事支援を求めた。
- 問3 弥生時代の遺跡からは、中央に2つの穴が開いた半月形の石器が数多く出土します。この道具を用いた当時の収穫方法と、その特徴について説明したものと最も適切なものを選びなさい。 (2024年 秋田県公立入試 類似)
- 穴に紐を通して指にかけ、熟した稲の穂先のみを摘み取る「穂首刈り」を行っていた。
 - 穴に長い木の柄を取り付け、稲を根元から一気に刈り取る「根刈り」を行っていた。
 - 石器の鋭い側面を使い、脱穀のために稲の茎から籾をこすり落としていた。
 - 複数の石器を組み合わせて土を掘り起こし、田植えの前の耕作に使用していた。
- 問4 弥生時代の遺跡から発掘される人骨に見られる特徴のうち、当時の社会において集落間の対立が激化したことを示す根拠として正しいものはどれですか。 (2022年 沖縄公立入試 類似)
- 骨に武器による殺傷跡があったり、本来あるはずの頭部がない状態で発見されたりすること
 - 人骨の周囲に、祭祀に用いられたと考えられる銅鐸や銅剣が大量に並べられていること
 - 人骨が、身分に応じた大きさや形の異なる前方後円墳などの古墳から発見されること
 - 骨の成分分析から、家畜の肉を主食としていたことが判明し、獲物の奪い合いが推測されること
- 問5 弥生時代の稲作の普及に伴って変化した人々の生活や道具について述べたものとして、正しいものはどれか。 (2023年 佐賀公立入試 類似)
- 収穫した稲を湿気やネズミから守るために高床倉庫が造られ、穂首を刈り取るための石包丁などが使われた。
 - 人々は獲物を求めて移動生活を続け、土器は表面に縄目の文様がある厚手で大まかな作りのものが主流となった。
 - 稲作を管理するために、強力な権力を持つ支配者が各地に巨大な前方後円墳を築かせた。
 - 金属器はまだ伝わっていなかったため、すべて木製の農具と黒曜石の打製石器のみで耕作が行われた。
- 問6 弥生時代に作られた銅鐸（どうたく）の表面には、梯子がかけられ、床が地面から高く持ち上げられた建築物の様子が描かれています。この建物が、主に収穫した米を蓄えるために用いられた名称として正しいものはどれですか。 (2018年 山形県公立入試 類似)
- 高床倉庫
 - 竪穴住居
 - 平地建物
 - 石舞台
- 問7 弥生時代に使用された土器の一般的な特徴を説明したものと、最も適切なものはどれか。 (2026年 北海道公立入試 類似)
- 表面に縄目の文様が全体に施されており、厚手で黒褐色をしている。
 - 赤褐色で文様やかざりが少なく、薄くて硬い性質を持っている。
 - 呪術的な目的から、表面に激しい隆起や複雑な装飾が施されている。
 - ろくろを使用せずに低温で焼かれたため、形が歪んでおり非常に厚くて脆い。
- 問8 邪馬台国の女王である卑弥呼が、中国の魏（ぎ）へ使いを送り、皇帝から「親魏倭王」の称号や金印、多数の銅鏡を授かった政治的な背景として、最も適切な説明はどれですか。 (2020年 秋田県公立入試 類似)
- 魏の後ろ盾を得ることで自らの権威を高め、国内の統治や他国との関係を有利に進めるため
 - 魏の強力な軍事力を日本に直接呼び寄せ、九州地方の反乱勢力を武力で鎮圧するため
 - 魏の優れた律令制度をそのまま日本に導入し、中央集権国家をいち早く確立するため
 - 魏と共同で朝鮮半島の高句麗を攻撃し、領土を拡大するための軍事同盟を結ぶため
- 問9 1世紀半ば、奴国の王が中国の王朝（漢）に使者を送り、金印を授けられたという出来事について、その当時の国際関係のあり方や目的を説明したものと最も適切なものはどれですか。 (2026年 山口公立入試 類似)
- 中国の皇帝に朝貢してその支配下に入ることで、自身の王としての地位を認めさせ、国内での権威を高めようとした
 - 対等な立場での外交を求める国書を送り、大陸の進んだ律令制度を日本へ速やかに導入することを目的とした
 - 朝鮮半島での軍事的な優位を確保するため、中国の王朝と軍事同盟を結び、援軍を派遣してもらう約束を取り付けた
 - 仏教を日本に広めるため、優れた経典や仏像を日本へ持ち帰る許可を皇帝に求める使節を派遣した
- 問10 弥生時代、稲作が西日本から東日本へと普及して食糧の蓄えができるようになると、各地で土地や水をめぐる争いが起こり、小さな国々が誕生しました。こうした中、倭の奴国の王が中国の王朝へ使いを送った目的や背景として最も適切な説明を選びなさい。 (2022年 広島公立入試 類似)
- 中国の後漢の光武帝から金印を授かることで、自らの支配の正当性を背景に権力を高めようとした。
 - 鉄製農具や須恵器の製作技術を独占し、縄文時代から続く狩猟・採集の生活をより豊かにしようとした。
 - 土偶を用いた独自の祭祀を中国に認めてもらうことで、大陸での宗教的な影響力を拡大しようとした。
 - 巨大な前方後円墳を築造するための最新技術を導入し、日本列島全体の統一を早急に成し遂げようとした。
- 問11 弥生時代から古墳時代にかけて、収穫道具が「石包丁」から「鉄鎌」へと変化したことに伴い、収穫の方法はどのように変化したか。 (2016年 奈良公立入試 類似)
- 実った穂先だけを摘み取る方法から、株の根元から刈り取る方法へと変化した
 - 地中の根を掘り起こす方法から、穂を叩いて実を落とす方法へと変化した
 - 手作業で一粒ずつ拾う方法から、土器を使って一度に回収する方法へと変化した
 - 石の表面で穀を削る方法から、金属の刃で穂を細かく刻む方法へと変化した
- 問12 弥生時代の集落において、収穫した稲を保存するために用いられた建築物の構造と、その目的について説明したものと最も適切なものはどれですか。 (2022年 群馬県公立入試 類似)
- 床を地面よりも高い位置に作り、風通しを良くして湿気を防ぐとともに、ネズミなどの害を防いで稲を貯蔵した。
 - 地面を円形や方形に掘り下げて床とし、防寒性を高めることで家族が共同で生活するための居住空間とした。
 - 建物の周囲に石垣を高く積み上げ、収穫した作物を敵対する他の集落による略奪から守るための防衛施設とした。
 - 建物の周りに深い堀を巡らせ、収穫物が雨水によって浸水したり流失したりするのを防ぐ排水機能を重視した。

答え合わせ・解説

問1	答え 3 狩猟や農耕の様子が描かれた、祭祀に用いられた銅鐸である	釣り鐘状の青銅器は銅鐸と呼ばれ、弥生時代の文化を象徴する遺物です。銅鐸の表面には、当時の人々が狩りをする姿や、高床倉庫、稲作の様子が浮き彫りで描かれているものがあり、文字のない時代の生活を知るための重要な手がかりとなっています。縄文時代の土偶や、古墳時代の鉄製武器とは時代や特徴が異なります。
問2	答え 1 魏の皇帝から「親魏倭王」の称号や金印を授かることで、国内の小国に対する自らの権威を高めようとした。	当時の倭は多くの小国に分かれて争っていましたが、卑弥呼が強力な魏の皇帝から「倭の王」として認められ、称号や贈り物を授かることは、周辺の国々に対して自らの政治的正当性を示す外交的な手段でした。この記録が残る『魏志倭人伝』によって、当時の日本に存在した邪馬台国の統治体制や社会の様子が現代に伝えられています。
問3	答え 1 穴に紐を通して指にかけ、熟した稲の穂先のみを摘み取る「穂首刈り」を行っていた。	当時の稲は現在の品種とは異なり、一斉に実るのではなく時期にばらつきがあったと考えられています。そのため、石包丁を用いて熟した穂だけを丁寧に選んで摘み取る「穂首刈り」という収穫方法がとられていました。中央の2つの穴は、作業中に道具が手から落ちないように、植物の繊維などで作った紐を通して指に固定するための工夫です。
問4	答え 1 骨に武器による殺傷跡があったり、本来あるはずの頭部がない状態で発見されたりすること	弥生時代の遺跡では、戦いによって傷ついた人骨や、鋭利な道具で切断された跡がある人骨がしばしば発見されます。これは、土地や水をめぐる「争い」が社会的に定着したことを示す考古学的な証拠です。銅鐸は祭りや儀式に用いられた道具であり、争いの直接的な証拠ではありません。また、古墳に埋葬されるようになるのは後の古墳時代の特徴であり、弥生時代の争いの証拠とは区別する必要があります。
問5	答え 1 収穫した稲を湿気やネズミから守るために高床倉庫が造られ、穂首を刈り取るための石包丁などが使われた。	稲作の定着により、食料を貯蔵するための高床倉庫が造られるようになりました。また、石包丁による「穂首刈り」が行われ、木製農具や、大陸から伝わった金属器（鉄器・青銅器）も併用されるようになりました。縄目の文様の土器は縄文時代、前方後円墳は古墳時代の特徴です。
問6	答え 1 高床倉庫	弥生時代には本格的な稲作が始まり、収穫した米を保存するための専用の建物が造られました。銅鐸などの表面に描かれた当時の絵画からも、梯子を使って登る床の高い建物の存在が確認されています。居住用の竪穴住居とは区別して使われていました。
問7	答え 2 赤褐色で文様やかざりが少なく、薄くて硬い性質を持っている。	弥生土器は、縄文土器に比べて高い温度で焼かれるようになったため、薄くて硬いという特徴を持ちます。縄文土器に見られるような激しい装飾や複雑な文様は少なくなり、機能性を重視したシンプルな作りが特徴です。
問8	答え 1 魏の後ろ盾を得ることで自らの権威を高め、国内の統治や他国との関係を有利に進めるため	卑弥呼が魏に朝貢したのは、当時アジアで強大な勢力を持っていた中国の皇帝から「王」として認められることで、国内の他の勢力に対して自分の正当性を示す目的がありました。金印や銅鏡といった贈り物は、その権威を視覚的に周囲へ誇示するための重要な道具として利用されました。
問9	答え 1 中国の皇帝に朝貢してその支配下に入ること、自身の王としての地位を認めさせ、国内での権威を高めようとした	当時の日本（倭）は多くの小国に分かれて争っており、各国の王は、強大な力を持つ中国の皇帝に貢物を捧げる「朝貢」を行いました。それに対して皇帝がその土地の支配権を認める（冊封）ことで、王は自国内や周辺の国々に対して自分の正統性や優位性を誇示しようとしていました。1世紀の奴国の王による外交も、こうした背景によるものです。
問10	答え 1 中国の後漢の光武帝から金印を授かることで、自らの支配の正当性を背景に権力を強めようとした。	弥生時代の日本では、稲作の普及に伴って貧富の差や対立が生まれ、各地に小国が形成されました。1世紀の57年、倭の奴国の王は中国（後漢）の光武帝に使者を送り、「漢委奴国王」と刻まれた金印を授けられました。これは、当時文明の進んでいた中国の皇帝に認められることで、他の小国に対する優位性を保ち、自らの支配権を強化する狙いがありました。選択肢にある鉄製農具や須恵器の普及、前方後円墳の築造は後の時代の特徴であり、土偶は縄文時代の文化です。
問11	答え 1 実った穂先だけを摘み取る方法から、株の根元から刈り取る方法へと変化した	石包丁は「穂首刈り」に適した道具でしたが、鉄製の鎌が普及すると、稲を根元から切り取る「根刈り」が可能になりました。根刈りは収穫の効率を大幅に高めただけでなく、収穫後の藁（わら）を家畜の飼料や肥料、わら細工などの資材として活用することにもつながりました。
問12	答え 1 床を地面よりも高い位置に作り、風通しを良くして湿気を防ぐとともに、ネズミなどの害を防いで稲を貯蔵した。	弥生時代に本格的な稲作が始まると、秋に収穫した米を翌年の春まで保存するなどの長期間の貯蔵が必要になりました。高床倉庫は、床を高くすることで地面からの湿気が伝わるのを防ぎ、米が腐るのを抑える工夫がなされています。また、柱の上の部分には「ねずみ返し」と呼ばれる板が取り付けられ、食料を食い荒らすネズミの侵入を防いでいました。選択肢にある地面を掘り下げる建築物は竪穴住居であり、主に居住用として使われていたものです。